



岡山市立浦安小で行われた特別授業

◎ オハヨー×ベネッセ、小学校で酪農特別授業
〔岡山〕オハヨー乳業は10日、教育事業を展開するベネッセコーポレーションとともに、岡山市立浦安小学校（大西佐由美校長）で、「農業・酪農の担い手不足解消のために、私たちにできること」をテーマにした特別授業を開いた。岡山市に本社を置く両企業がコラボし、酪農乳業の理解醸成を図るのが目的。同校5年A組の児童32人が7グループに分かれ、岡山の酪農乳業の振興に向け、消費拡大や担い手確保の方法を提案した。

両社の協業は今回が初めて。オハヨーは2022年から、県内小学校などに社員を派遣する食育授業を展開中。これまでに授業を受けた児童数は延べ3000人になり、岡山の生乳生産や牛乳・乳製品のファンづくりにも成果を上げている。こうした取り組みにベネッセが共感。小学生が県内酪農乳業の理解を深められるよう支援することとした。

対象にはベネッセの教材を活用している浦安小5年A組が選ばれ、昨年から「これからの食料生産とわたしたちの5A（5年A組）から酪農の未来を変えようプロジェクト」と題し授業を開始。日本の食料生産や酪農の現状などについて、「総合的な学習の時間」を活用し、計7回にわたり学んできた。

オハヨーはこの間、酪農乳業関連データの提供や、社員を派遣し児童の疑問に答える出張授業を実施した。ベネッセも独自の教育支援プラットフォーム「ミライシード」を通じ協力。資

料作成やパソコン上での情報共有などを行う同システムで学習の効率化をバックアップした。

この日のプレゼンは、こうした授業の総まとめ。岡山の酪農乳業を巡る課題と解決策を、子どもたちが自分たちで考え、資料にまとめ、グループごとに発表した。オハヨ一の藤本篤社長と、ベネッセの岩瀬大輔会長兼社長、おかやま酪農協の檜尾康知組合長が審査員を務めた。

最優秀賞には『ホンモノ』のおいしさを届ける地域ブランドの提案」が輝いた。香川県の「讃岐サーモン」や「オリーブハマチ」などを引き合いに、地域ブランドを開発する必要性を強調したものだ。具体的な商品としては、オハヨ一のヨーグルトやクリーム、県産のシャインマスカットなどを、オハヨ一のミルク餅で包み込んだ「OHAYOグルト大福」を提案した。

オハヨ一の藤本社長は最優秀賞について「商品開発は大人でも頭を抱える難題。地産地消は実際の開発場面でも参考になる」と評価した。今回の企画については「私の実家も酪農を営んでいる。岡山の基幹産業の一つである酪農について、子どもたちが一生懸命考えてくれたことに感動した。当社はこれまでも小学校などへの出張授業を行ってきた。(ベネッセとの協業で)今後も酪農をテーマにした授業実施の機会に参加していきたい」と意欲を示した。

ベネッセの岩瀬会長も「今回の取り組みは」当社にとつて企業と学校での学びをつなげようとの狙いがある。子どもたちの発表内容は今後実現していく可能性を秘めている」と期待を込めた。

おかやま酪農協の檜尾組合長は「小学5年生がこんなすごいことを考えつくのかとビックリした。酪農家の離農が進んでいるものの、牛乳は国産100%の貴重な食品。その価値について、我々も一生懸命、消費者に伝えていく努力をすることが大事だ」と力を込めた。